古典チェックシート

年　組　氏名（　　）

【歴史的仮名づかい】

問一　次の歌をすらすら読めるかな。

□(1)　ひさかたの　ひかりのどけき　はるのひに
　　しづこころなく　はなのちるらむ

□(2)　わすれじの　ゆくすゑまでは　かたければ
　　けふをかぎりの　いのちともがな

□(3)　あまつかぜ　くものかよひぢ　ふきとぢよ
　　をとめのすがた　しばしとどめむ

□(4)　あさぢふの　をののしのはら　しのぶれど
　　あまりてなどか　ひとのこひしき

□(5)　こひすてふ　わがなはまだき　たちにけり
　　ひとしれずこそ　おもひそめしか

古文には、歴史的仮名づかいが用いられています。この歴史的仮名づかいは、はるか昔から昭和二十年の第二次世界大戦が終わるまで、長い間用いられてきました。

現在、わたしたちが使用しているのは、現代仮名づかいと呼ばれるものです。歴史的仮名づかいと比べると、わたしたちにとっては、現代仮名づかいのほうがなじみ深く、はるかに便利に感じます。でも、現代仮名づかいは、まだ使われ始めてからわずかに五十年前後。一方の歴史的仮名づかいは、数百年にわたる日本語の文字の書き表し方としての歴史をもっています。

日本人として、自分の国の言葉をよく理解するうえでも、歴史的仮名づかいに慣れ、古文に親しめるようになりましょう。

発音の原則

(1)「ゐ」→「イ」
　「ゑ」→「エ」
　「を」→「オ」

(2)「は・ひ・ふ・へ・ほ」（語頭以外）
　→「ワ・イ・ウ・エ・オ」

(3)「ぢ」「づ」→「ジ」「ズ」

(4)「くゎ」「ぐゎ」→「カ」「ガ」

(5)語尾などの「む」→「ン」

(6)「ア段」＋「う・ふ」→「オ段」の長音
　（「かう」→「コー」）

(7)「イ段」＋「う・ふ」→「〇ュー」
　（「きう」→「キュー」）

(8)「エ段」＋「う・ふ」→「〇ョー」
　（「けふ」→「キョー」）

問二　次の言葉をすらすら読めるかな？

□(1)　ゐなか
□(2)　こゑ
□(3)　をとこ
□(4)　おはす
□(5)　かひこ
□(6)　とふ
□(7)　いへ
□(8)　かほ
□(9)　はぢ
□(10)　みづ
□(11)　くゎじ
□(12)　ぐゎらり
□(13)　あふぎ
□(14)　うつくしう
□(15)　けふ

【意味】

問三　次の古文の現代語訳としてふさわしいものを、あとのア～カから一つずつ選んでみよう。

□(1)　腹あしき人なりけり。（　　）
□(2)　腹あしき人なり。（　　）
□(3)　腹あしき人にあらず。（　　）
□(4)　腹あしき人にやあらむ。（　　）
□(5)　腹あしき人にてありけむ。（　　）
□(6)　腹あしき人ならずや。（　　）

ア　怒りっぽい人であろうか。
イ　怒りっぽい人ではない。
ウ　怒りっぽい人であったのだろう。
エ　怒りっぽい人でないことがあろうか。いや、ない。（まさに、怒りっぽい人だ。）
オ　怒りっぽい人であった。
カ　怒りっぽい人である。

古文を読んでいていちばん困ってしまうのは、文末の表現（助動詞や助詞）です。文末の助詞や助動詞の意味がわからないために文全体の意味もわからない、などということがありませんか。よく使われる言葉については、覚えておくようにしましょう。

よく用いられる文末表現

(1)「き」「けり」＝「～た」（過去）
(2)「なり」＝「～だ」（断定）
(3)「ず」＝「～ない」（打ち消し）
(4)「む・らむ」＝「～だろう」（推量）
(5)「けむ」＝「～ったのだろう」（過去推量）
(6)「ずや」＝「～でないことはない、いやまさにそうだ」（反語）

ほかにも古文の中には、「現代では用いられなくなっている語」や「現代語と意味や使われ方の異なる語」、古文独特の「敬語」などがあります。そうした語についての知識があやふやだと、古文の意味を理解することができません。これらの基本的な古語については、きちんと覚えておくのがよいでしょう。

問四　次の古語の意味について、古語辞典などでチェックしておきましょう。

現代では用いられなくなっている語

□(1)　いと
□(2)　いみじ
□(3)　げに
□(4)　さらなり
□(5)　つきづきし
□(6)　つれづれ

現代語と意味や使われ方の異なる語

□(1)　あした
□(2)　あはれ
□(3)　あやし
□(4)　うつくし
□(5)　おどろく
□(6)　かなし
□(7)　すさまじ
□(8)　つとめて
□(9)　にほふ
□(10)　めでたし
□(11)　やがて
□(12)　をかし

敬語

□(1)　おはす
□(2)　おぼゆ
□(3)　きこゆ
□(4)　さぶらふ
□(5)　たまふ
□(6)　はべり